

炎症性腸疾患 (IBD) に対する新規治療薬剤の開発は驚くべき活況を呈し、それら治療薬の治験の大部分に関わっていると自負してきたが、最近では実施する治験の種類と数が多くその詳細を正確に把握するのが困難になっているのは私だけではないと思われる。本邦で IBD 新薬の開発治験が盛んになったのは、本邦では IBD 患者数の増加が著しく世界的に注目されていることも理由のひとつであろう。がもっとも重要な要因は、IBD 病態研究の進歩・発展が著しく詳細な機序が次々と明らかにされ、病態機序の各種ポイントを制御する特異性の高い薬剤開発が推進されていることにある。全身性ステロイドや従来の免疫抑制薬といった過剰な炎症・免疫反応状態を広範に是正する薬剤を補うように、各種抗体製剤や低分子化合物で作用の特異性が高い新規薬剤が次々と導入されつつある。さまざまな治療法が実施可能になることは、病状が多彩で有効性の予測が困難な場合が多い IBD 患者にとって選択幅が大きく治療法の変更が可能になることは有益な反面、安全で高率な有効性を実現する治療法を的確に選択しなくてはならない医師にとっては困難な時代となったともいえる。

本特集では導入として、各新規薬剤の作用機序を理解するために、背景となる解明された IBD の最新研究成果をわかりやすく解説していただいた。そして昨年上市された新規抗 TNF- α 抗体製剤と IL-12/23 P40 抗体製剤、今年 (2018 年) 上市予定の製剤を含むインテグリン抗体阻害薬・JAK 阻害薬、現在治験中で今後上市が期待される S1P 受容体アゴニストや SMAD7 阻害薬、欧米で汎用され本邦での投与が待たれた局所作用型ステロイド剤、最後に古くて新しい腸内細菌叢をターゲットにした治療法に関し、個々の治療に造詣の深い日本を代表するエキスパートの先生方に執筆をお願いした。馴染みの少ない新規治療薬が大部分ではあるが、今後の IBD 治療に欠かせない薬剤ばかりである。本号は理解しやすい構成と内容に仕上がっており、忙しい時間を割き執筆頂いた先生方に改めて感謝申し上げる。

鈴木 康夫

(東邦大学医療センター佐倉病院 IBD センター)

INTESTINE

Vol.22 No.3

©2018 年 5 月 20 日発行

定価 (本体 2,850 円 + 税)

●年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

・ Published by Nihon Medical Center Inc.

© 2018, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株) 日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構 (☎ 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail : info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

編集 『INTESTINE』編集委員会

発行人 増永 和也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 (協和ビル)

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail intestine@nmckk.co.jp

印刷所 シナノ印刷株式会社

広告申込所 / 株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話 (03) 3814-8541